

今、脚光を浴びている焼森山のミツマタ群落

焼森山(茂木町)のミツマタ群落地を見て来ました。例年より1週間早く開花し、見頃は過ぎてしまいましたが、ピーク時はさぞかし綺麗だったであろうという迫力を感じました。でも、群落地周辺の里山風景は安らぎを感じるなんとも素晴らしいものでした。来年こそは見頃に眺めたいな～(4月5日時点)



(←見頃の本来の黄色が残っている希少な花株)

(白く変色した状況。びっしり自生している間伐した林内に光が差し込んで大迫力。時節には朝7時頃、木漏れ日が幾筋も差し込む幻想的な感動の瞬間を狙う大勢の写真家ですし詰め状態↓)



- さて、ここで一口メモ
- ①ミツマタの名前の由来は？
 - ②ミツマタが生息している理由は？
 - ③ミツマタが発見された経過は？
 - ④これだけ群落化した理由は？
- ※答えは巻末に

ミツマタ群生地周辺の周辺で見られる代表的な里山風景



その1

(←ヤマザクラ等の広葉樹が織りなす微妙な色の濃淡が目に焼き付く)

その2

(ミツマタは見頃を過ぎてましたが、代わりにミツマタと似た色のヤマブキの花が見頃を迎えてました→)



その3

(←田植えの準備が間もなく始まる典型的な安らぎの里山風景。

茂木町には、残したい栃木の棚田21認定地や日本棚田百選にも選定された素敵な棚田が広がる地区もあります)

ミツマタが間伐により、その生息範囲を一気に拡大したように、里山林や里山は、間伐や農耕といった人の手で適度に管理されることにより、生き物にとって生息・生育しやすい空間、環境が創出される命溢れる場所です。

あなたも、里地・里山と触れ合い、魅力を再発見してみませんか。

答え

- ①ミツマタは枝分かれが3つであること
- ②戦時中、紙不足を危惧した地元民が紙の原料として植栽したから
- ③戦後、忘れられたが、平成17年の茂木中学校建設時、焼森山の町有林を間伐した際に発見
- ④これ程群落化したのは、間伐により暗かった林内に光りが差し込み、生息環境が好転したから